

という点で、意義が高いものとの印象を持った。現在、残念ながら、わが国において同様の議論が活発に行われているとは必ずしもいえない状況にある。本会議への参加を通じ、今後、わが国においても、人口推計に関する研究者と利用者が一体となり、推計に関する科学的な方法論からその利活用法に到るまでの包括的な議論を行うことのできる機会があることが望ましいのではないかと感じた。

(石井 太記)

## 日中韓による高齢者家庭保健及び公共支援サービスに関するセミナー

2010年4月29日と30日の両日、中国北京市において標記のセミナーが開催された。このセミナーは2008年12月に開催された日中韓三カ国首脳会議において、中国の温家宝総理が「日中韓による高齢者家庭保健及び公共支援サービス」について協力をするように呼びかけ、日中韓の合意に基づいて実現したセミナーである。

このセミナーの背景には、東アジア三カ国が現在深刻な少子高齢化問題に直面し、今後も超高齢化の進展といった似通った人口動向にあるからに他ならない。そのために、このセミナーでは第一に、三カ国の政府間・研究者間の高齢者を対象とする保健福祉サービスや公共サービス分野に関する相互理解を深め、今後の継続的な連携を行う。第二に、この分野の各国の経験と取り組みに関した交流を促進する。そして第三に、この分野の今後の協力関係について共通認識を図り、三カ国間協力の合意文書を作成することを目的として開催された。日本からは、宮島厚生労働省老健局長、勝又同省健康局保健指導官、ならびに高橋国立社会保障・人口問題研究所副所長が参加した。

セミナーは、大きく分けて三つのセッションが行われ、最初のセッションでは「人口及び高齢化対応」という共通テーマで、中国側から「人口問題の総合的解決と人口高齢化への対策」、また、韓国側より「高齢化の現状と関連対策」と題する報告があった。そして日本側から「日本の少子化と長寿化の帰結：人口減少と超高齢化社会」と題する報告を高橋が行った。セミナーの第二セッションでは、「高齢者の健康とサービス」という共通テーマでそれぞれ三カ国が報告を行い、報告に基づく討議が行われた。また、第三セッションでは、「高齢者家庭保健及び公共支援サービスに関する事例報告」と出して、各国が行っている具体的な施策の事例が紹介され、討議が行われた。

最終日のセミナーでは、現在中国で行われている高齢者保健福祉サービスの具体的事例の視察も行われ、最後に再び三カ国の本テーマに関する討議を行いセミナーを終了した。

(高橋重郷記)